

入選

水野 康太郎(みずの こうたろう) 鍵水中 2年生

作品名:「下町ロケット」に学ぶ生き方

図書:下町ロケット

私が下町ロケットを知ったのは、今から約4年ほど前。当時たまたま放送されていた、テレビドラマを見たことに始まる。ドラマが好きになり、祖父に買ってもらった原作本を読んで、私は心を動かされた。なぜならば、この作品の主人公の生き方が素晴らしかったからである。

この作品の主人公は、何事にも全力で取り組む中小企業の社長。時にはその姿勢に反発する社員とぶつかりながらも、最後は皆一丸となって、恐れることをせずに立ち向かう。

それとは反対に私は、失敗を恐がり、何か新しいことや難しいことに取り組むのをためらう性格だった。そのせいか、作品の面白さを感じつつも、主人公に対して一つの疑問を抱くようになっていた。

「なぜ彼は困難と戦い続けるのだろうか。」

人間は誰しも、困難にぶつかる時がある。だが主人公は何度も何度も、困難に行く手をはばまれる。それなのに主人公は諦めることを絶対にしない。ぶつかる度に向き合い、そして戦い抜く。まるで何かのヒーローのようで、彼の心が折れることはない。一体、何が彼の原動力となっているのか、不思議だった。

疑問を持ちながら読み進めていった時に、私はとあるページで手を止めた。そこには、主人公が自社の社員に向けて発した、一つの台詞が書かれてあった。

「どんな難問にも、必ず答えはある。」

私はこの台詞を目にした時、胸を打たれた。それまでは、苦しいことや辛ことを出来るだけ避けようとしてきた私にとって、この台詞はものすごく心を動かされた。もっと早くこの作品を読んでいたら、今までの自分はどこかが変わっていたかもしれない。読み終えた後から、そんな考えが脳裏にうかんだ。

私はこの作品を読んだことで、自分の生き方について、考えさせられたような気がした。迷いから逃げるのではなく、真正面から立ち向ってこそ、初めて自分だけ

の道を切り開くことが出来るのだと、主人公からそう教えてもらった。私はわがままで、面倒くさがり屋で、悩むことや考えることがあまり好きではなかった。だが、この下町ロケットという、一つの小説が、自分自身を変えさせてくれた。失敗に対して決して恐がらずに、沢山悩んで時には遠回りをする。そうして苦難を乗り越えて、自分を磨いて行けば、後悔をしない満足な未来を生み出すことが出来る。そして、その未来へと向けて、一步ずつ自分を進めることが出来る。中学二年になってから気付くのも何だか恥ずかしいけれど、私には将来の目標がしっかりと立っているから、その目標を無事に達成出来るように、そして何十年後に自分が年老いた時に、

「今までの人生に悔いなど残っていない。」と胸を張って言えるように、少しずつではあるけれど、自分を磨き上げていきたいと思う。

そして最後に、自分自身を見つめ直す機会を与えてくれた下町ロケットに、心から感謝をしたい。